

社会力を育む保育・生活・総合

－ 道徳的心情とのかかわりをさぐる －

1 これまでの取り組み

「保育・生活・総合」領域では、平成19年度より「こだわり」と「かかわり合い」のある追求がみられる活動のあり方について探る取り組みを行ってきた。さらに、二つの追求だけでなく、自分の成長を見つめたり、確かめたりするために「ふりかえり」も大切にすべきだということが明らかになってきたこと、学習指導要領改訂に伴い、「総合的な学習の時間」において自分の生き方を考えることを重視することになったことから、平成20年度より「ふりかえり」のある追求も加えることになった。

また、「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」のある追求からは、次のような力が身につくと考え、実践を行ってきた。

「こだわり」 のある追求	社会に対して興味・関心・疑問をもつ力	1ア
	自分の興味・関心のあること、疑問を解決・構想・実行する力	1イ
	追求していく中で得る満足感・充実感	1ウ
「かかわり合い」 のある追求	他者とかわる意欲・スキル	2エ
	他者とかわる充実感、意味の理解	2オ
	目的にむかって他者とともに取り組む力	2カ
「ふりかえり」 のある追求	社会とのかかわりを通して社会の中に自分がいると認識する力	3キ
	自己有能感（追求したことへの満足感・達成感、自分はできるという自信）	3ク
	自己有用感（自分は誰かのために役に立っているという満足感や自信）	3ケ

昨年度は、上記の力と社会力の関連について次のように整理した。

社会力	社会の運営に積極的にかかわっていく力	1ア, 1イ, 1ウ	3ク 3ケ
	より良い社会をつくっていくようとする意志・意欲	2エ, 2オ, 3キ	
	より良い社会を考える構想力	1ア, 3キ	
	人とより良い社会を実現・実行する資質能力	1イ, 2カ	

そして、どのような「ひと・もの・こと」に子どもたちが出会い、その中でどのような力を身につけると、「社会力」が身についていくかについて、発達段階の視点を明らかにし、それぞれの教育研究ブロックでめざす姿を明らかにしようとした。また、整理したことをもとに、めざす子どもの姿を『「保育・生活・総合」において11年間で育てる子どもの姿（イメージ図）」として194ページの表のようにまとめた。

2 今年度の取り組み

今年度は、昨年度整理したことをふまえつつ、各教育研究ブロックごとに「保育・生活・総合」で育てたい姿や力をより良く育てる活動を決定し、その活動において予想される子どもの気持ちを整理した。また、予想される子どもの気持ちが道徳で育てる心情とどのようなかかわりがあるかを各教育研究ブロックごとに道徳の重点目標と照らし合わせて195ページからの表にまとめた。

3 今年度見えてきたこと

「保育」では、年少・年長ともに1学期は「自分を思いやる」心情A→2学期は「仲間を思いやる」心情B→3学期は「社会を思いやる」心情Cという流れになっていることが分かる。これは、自分の気に入った場所・もの・遊びを見つめたり、先生は自分のことを分かってくれるんだと感じたりすること

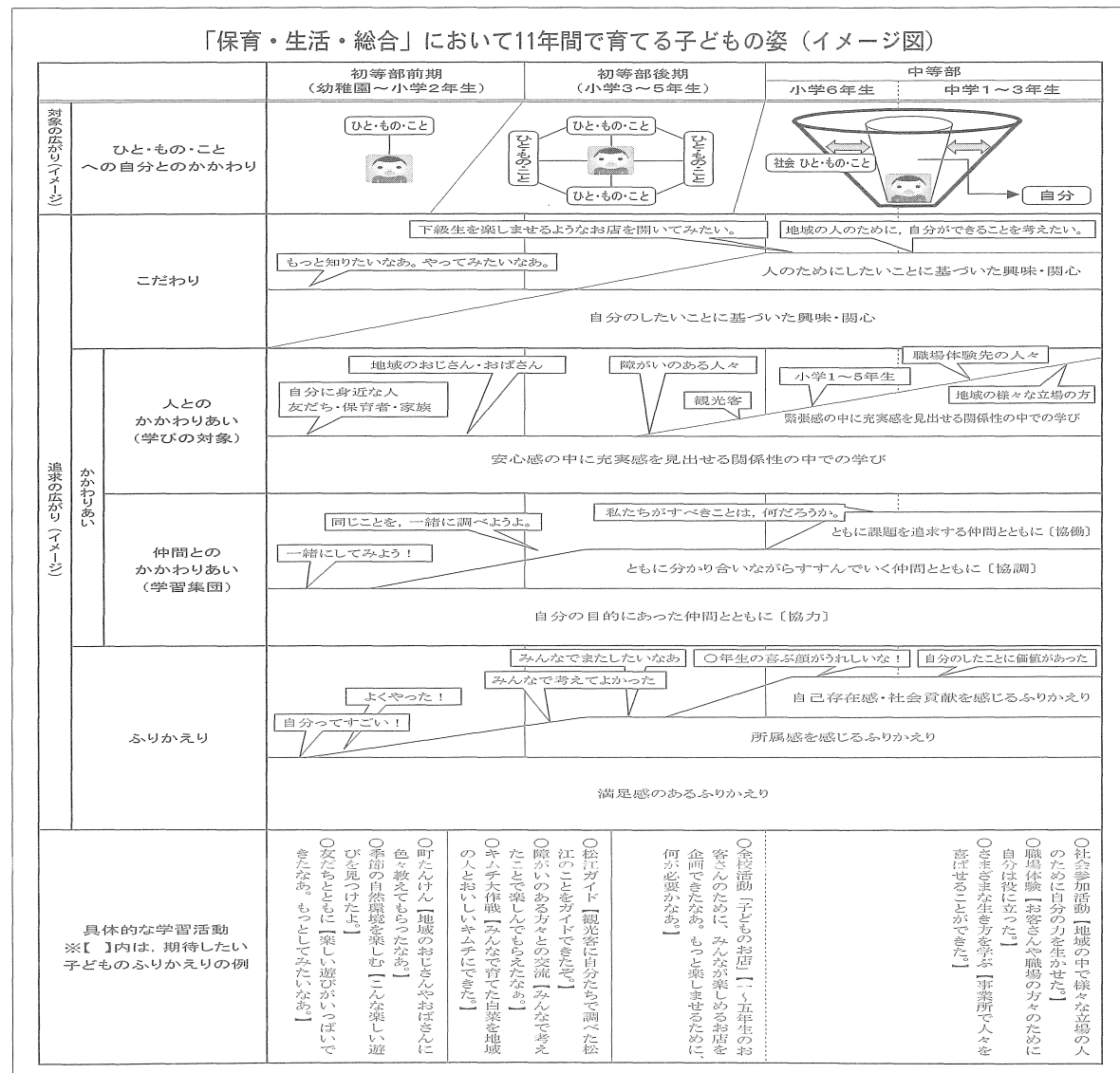
で、自分自身が安定することが基盤となることをあらわしている。そして、自分自身が安定することにより、友だちの存在に目が向くようになり、1年間の終わりには、集団遊びを通して友だちとルールを共有したり、問題を解決したりする姿が見られる。

「生活」では、とくに心情Aが多くあらわれている。これは、「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」のある追求を通して自分に自信をもつことができるためと考えられる。今回の学習指導要領改訂で、生活科では、「自分自身への気づき」の重要性がさらにいわれている。このことにも合致しているといえる。

「総合」では、初等部後期・中等部において次のような特徴が見られた。初等部後期では、心情Bが、どの学年のどの活動にもあらわれる。これは、特にかかわるひと（相手）が広がるためだと考えられる。かかわるひと（相手）が広がることにより、視野も広がり、「相手の立場を考えて思いやる心」があらわれると考えられる。中等部における小学6年では、初等部後期同様に心情Bが多くあらわれる。これは、初等部後期と中等部の接続期として小学6年が位置付いており、活動も初等部後期の流れをくむものであるからと考えられる。中学1～3年では、心情Aを基盤とし、心情A・心情Bから心情B・心情Cへとつながる流れが見える。11年間を見据え、社会力を育む「総合」をめざす本研究と合致する結果といえる。

来年度は、今年度整理した活動を中心に子どもの気持ちに注視しながら保育・授業実践を行い、予想される子どもの気持ちとの差異の有無などについて検証し、よりよい社会力の育成をはかりたい。

(文責 藤原 さり)



初等部前期ブロック (保育)

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れようとしたり、周りの友だちの言葉や表現、行動を受けとめたりしながら、遊びを追求していこうとする園児

	4歳児 年少	5歳児 年長
経緯	幼児期は身のまわりの自然環境に全身を使って親しみ、好奇心をもってかかわっていく。自然のもつ美しさや不思議さに心動かされて、気に入った遊びを繰り返し様々な事象に興味や関心をもって遊ぶ。その中で新たな発見をしたり、どうすればもっと面白くなるかを考えていくことが追求する姿につながると捉え、自然とのかかわりを取り上げている。	身近な環境(自然・物・生き物)にかかわって、考えたり試したりする中で、その性質に気づいたり、その仕組みがわかったり、新しい発見があったりしながら、遊びを広げたり深めたりしていく。その中で、興味を同じくする友だちとめあてに向かいながら協力したり相談したりして、遊びを継続していく。以下のことを通してさらに追求する意欲や態度を培うことが就学以降の学びにつながると捉えている。
自分でみつけた遊び	4月～7月頃 <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな草花を見つけたり集めたり、使ったり遊んだりする。(摘んで遊ぶ、ごちそう作り、色水遊びなど) ・いろいろな生き物を見つけたり、採集したりする。(だんご虫、カエル、アメンボなど) A「先生と一緒に遊びたいな」 A「先生は自分のことわかってくれてるな」 A「幼稚園ってあんしんできる場所なんだな」 B「この友だちは〇ちゃんという名前なんだな」	4月～7月頃 <ul style="list-style-type: none"> ・春の自然の環境に親しみ草花を集めたり、作ったりして遊ぶ ・身近な生き物を見つけたり、調べたり、飼ったりする。(オタマジャクシ、ザリガニ、バッタ、コオロギなど) A「年長になったから年少に優しくしてあげよう」 A「幼稚園中の片づけは ぼくたちに任せて」 A「ぼく こんなやりかたをみつけたよ」 B「〇ちゃんがしてること 面白そうだな」
自分でみつけた遊び	9月頃～11月頃 <ul style="list-style-type: none"> ・自然物を見つけたり、自然物で作って遊んだりする。(落ち葉、ドングリなど) ・園庭でのびのびと運動する遊びをやってみよとする。(かけっこ、つなひき、自転車こぎなど) B「〇ちゃんと仲良くなったよ」 B「〇ちゃんが困った顔している」 B「かして」「いれて」という気持ちいい。	9月頃～11月頃 <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の変化に気づいたり、秋の自然物を利用して遊んだりする。(キンモクセイ、落ち葉の色に気づく、ドングリゴマなど) ・運動会にかかわる活動をみんなと一緒にする。(リレー、ダンスなど) B「〇ちゃんってこんなことが得意なんだな」 B「こんなことをしたり、こんな言い方をしたりすると、〇ちゃんが悲しいだろうな」
自分でみつけた遊び	12月頃～3月 <ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然に親しんで遊ぶ。(風で遊ぶ、雪、水で遊ぶなど) ・集団遊びを楽しむ。(おにごっこ、ハンカチ落としなど) C「困ったことがおきたぞ。自分たちでなんとかしてみよう」 C「たくさんの友だちと遊ぶと楽しいな」	12月頃～3月頃 <ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然に親しんで遊ぶ。(凧あげ、氷とり、そり遊びなど) ・大きな集団で運動的な遊びを楽しむ。(長縄跳び、ドッジボールなど) C「他のクラスの友だちや年少さんとも一緒に遊ぶと楽しいぞ」 C「たくさんの友だちと遊ぶ時、ルールを作って遊ぶと面白いぞ」 C「みんなで考えた遊びのルールだから、守ろうよ」

初等部前期ブロック（生活科）

人・もの・ことに関心をもってかかわる中で、自分の成長に気づき、くらしを豊かにしていくことのできる児童

	1 年	2 年
経緯	<p>接続期であることを意識し、幼稚園からゆるやかに小学校生活に移行できるような活動を意識した。各学期において、児童が追求する中で、できるようになったり、コツに気づいたりし、それが自分自身への気づきにつながるような活動を取り上げた。</p>	<p>2年生として「1年生に教えてあげたいな」と思う気持ちを大切に活動を取り上げた。また、1年生と同じような活動でも、対象が広がったり、空間的な距離が広がったりする活動を取り上げた。初等部後期につながる学年として、自分自身の成長に気づく活動も大切にしていきたい。</p>
活	<p>○学校大すき（1学期）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校たんけんをしよう（4月） A学校にはこんなお部屋があるんだ。 Aいろいろな先生がいるよ。 Aここで勉強してみたいな。 なかよし大作戦（5月） Bお兄さんお姉さんとなかよくなったよ。 B先生とお話したよ。 お気に入りの場所を見つけよう（6月） A学校のひみつの場所を見つけたよ。 Aみんなにこの場所を教えてあげたいな。 	<p>○1年生となかよくなる（4月） B1年生に学校のお気に入りの場所を教えてくださいよう。 B優しく教えてあげよう。 Bどこを教えてくださいかな。</p> <p>○やさいとなかよくなる（1学期）</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜作りをしよう（5・6月） Aちゃんとお水をあげよう。 A優しく声をかけると元気に育つね。 Aどんどん大きくなるね。 夏野菜を食べよう（7月） Aどんな料理にしようかな。 A材料や作り方を調べよう。 Aおいしい料理ができたよ。
動	<p>○秋とあそぼう（2学期前半）</p> <ul style="list-style-type: none"> むしとなかよし（9月） Aバツってどこにいるんだろう。 A自分でかってみよう。 どんぐりとなかよし（10月） Aどんぐりをたくさん見つけたよ。 Aどんぐりであそびたいな。 Aどんぐりおもちゃの作り方を教えてあげるよ。 <p>○おてっだい大作戦（12月） Aおうちにはどんな仕事があるのかな。 Aおうちのしごとをやってみよう。 A練習したら、うまくなったよ。</p> <p>○むかしのあそびを楽しもう（1月） Aけんだまならやったことあるよ。 Aこまはどうやったらうまくまわせるのかな。 B〇〇さんがとってもうまいよ。</p> <p>○1年生アルバムを作ろう（2・3月） A4月ってこんな字を書いていたんだ。 Aぶーに入ったことを覚えているよ。 A1年間楽しいことがいろいろあったね。 Aできるようになったことがたくさんあったよ。</p>	<p>○秋を見つけよう（2学期）</p> <ul style="list-style-type: none"> むしとなかよし（9月） A虫にぴったりのおうちをつくろう。 B大好きな虫のことを1年生に教えてあげたいな。 学校のまわりをたんけんしよう（10月） A千手院には行ったことあるよ。 Cバスからは見たことあるけど、歩いたことはないよ。 Cこんなお店があるんだ。行ってみたいな。 <p>○動くおもちゃ作りをしよう（12月） Aどうやったらうまく動くのかな。 B〇〇さんのは？ Cゴムを使うとよく動くよ。</p> <p>○七草がゆを作ろう（1月） A附属小学校の中にも食べられる草がたくさんあるね。 Cうまく切ることができたよ。</p> <p>○成長アルバムを作ろう（2・3月） A生まれたときにこんなことがあったんだって。 Aおうちに赤ちゃんの時のくつがあったよ。 A幼稚園では、こんな遊びが楽しかったよ。 A3年生でもがんばりたいよ。</p>

初等部後期ブロック（総合）

自分の楽しさを追求する中で、ひとのために自分を生かそうとする児童

	3 年	4 年	5 年
経緯	<p>生活科からの移行期であり、視野や経験を広げていくことが重要な時期である。追求の対象が、経験したことのないような「ひと・もの・こと」へとスムーズに移行できるよう、身近な校庭の草を取り上げて、追求の対象とした。</p>	<p>さまざまな立場から社会を見直してみる目や、人のために自分ができることを見つけようとする態度を育てることを目的として「点字」、「車いす」、「手話」等の福祉体験を行う。体験を通して福祉に対する関心をもち、自分の知りたいことや問題点について追求する。</p>	<p>松江の魅力を探ることで、ふるさと松江を大切に思う心情を育てるとともに、松江の魅力を媒介として、観光客の方と交流することで、人とつながる喜びを体験できるように計画した。 子どものお店は、事後に6年生からの助言を受け、それを次に生かしていくことができるため、この時期に実施する。</p>
活	<p>食べられる草を見つけよう 4～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇スイバを食べよう 〇どんな味がするかな？どうやったら食べられるかな？調べよう。 〇ゆがいて食べよう。 〇ほかに食べられる草はないかな？ 〇どんな草が食べられるか調べよう。 〇調理して食べよう。 <p>Cみんなと協力したらおいしくできたよ。 Cうちのひとに聞いたらわかったよ。 B友達に教えてあげたら喜んでくれたよ。 B友達がすごいことを調べていたよ。</p>	<p>みんなにやさしい町づくり 4～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇ライトハウスライブラリーへ行こう 〇点字や録音による図書などを体験しよう。 <p>B目が不自由な人は、こんな工夫をして生活しておられるんだな。 C自分にもできることってあるかな。 C目や足が不自由な人にやさしい町はみんなにやさしい町なんだなあ。</p>	<p>松江観光ガイド 4～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇松江の魅力を探ろう 〇プロのガイドさんに松江の観光案内をしてもらおう。 〇観光客の方にアピールできる松江の魅力調べよう。 <p>Bプロのガイドさんは、聞く人をあきさせないように、たくさん工夫をして話しておられた。 A私も聞く人の立場に立って伝え方を工夫したい。 C私もぜひ、松江の魅力を観光客の方に伝えたい。</p>
動	<p>9～12月 実りの秋を楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇どんぐりを食べよう 〇校庭にあるもので食べられるものってないかな？ 〇収穫祭をして、城北公民館の方に食べてもらおう。 <p>C公民館の方が喜んでくれたよ Bどんな収穫祭なら喜んでもらえるかな？ B友達がいいアイデアを出してくれたよ。</p>	<p>9～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇車いす体験をして、みんなにやさしい町づくりをしよう 〇障がいをもった人の立場から生活や社会を見直し、自分にできることを考えてみよう。 <p>B車いすを使っている人にとっては、これがとっても大切なんだなあ。 B自分にもできることってあるかな。</p>	<p>9～11月</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇観光ガイドをしよう 〇友達と観光ガイドの練習をしよう。 〇観光客の方に松江の魅力のアピールしよう。 <p>C自分の観光ガイドが喜んでもらった。「また来たい。」と言われた。松江って本当に誇れるふるさとだな。 B聞いてもらえるってうれしいな。 喜んでもらえるってうれしいな。</p>
	<p>1～3月 地域の方に春の七草をごちそうしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇地域の方と春の七草を食べよう 〇校庭に生えている七草を探そう。 〇七草がゆをつくろう。 〇一年間をふり返って、附小の食べ物図鑑をつくろう <p>C公民館の方が喜んでくれたよ。 Bどんな料理なら喜んでもらえるかな。 A喜んでもらうための方法を一生懸命考えたよ。</p>	<p>1～3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇バリアフリーについて考えよう 〇施設バリアフリーを考えよう 〇人にやさしい町づくりに必要なバリアフリーを考えよう。 <p>B自分あまり使わないものでも、それがないと、とても困る人がいるんだなあ。 B自分にもできることってあるかな。 Aだれもがくらしやすい町にするためには、私たちみんなが相手の立場に立って行動することが大切だ。</p>	<p>子どものお店 12月～2月</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇「子どものお店」を開こう 〇お店の内容を考えよう。 〇お店の練習をしよう。 〇お店を開こう。 <p>Bどんなお店にしたらお客さんが喜んでくれるかな。 A6年生に教えてもらったポイントを次に生かしたいな。 Cお客さんが「楽しい」って言ってくれた。うれしいな。</p>

集団の中で自己を表現することができ、主体的・自立的に考えることができる児童・生徒

	小 6	中 1	中 2	中 3
経緯	5年生までの子どもをお客さんとしてお店を開くことを通して、店員同士協力して人のために何かをするための企画立案、準備、実行といった一連のサイクルを、どの子どもにも自分のこととして取り組めるようにしていくため、お店を開く活動を繰り返し行う。	小学校からの移行期を踏まえ、地域での交流体験学習を設定した。さまざまな生き方にふれることで、自分自身の生き方を振り返り、よりよい生活を実現していこうとするために、「さまざまな生き方を学ぶ」というテーマで交流体験学習を行う。	中1で経験したことを生かし、社会で働く人々とのふれあいを通して、自分自身の生き方を振り返り、職場で働くことによって、将来の自分を展望し、これからの生活に生かすことができるようにするために、「自分自身の生き方を学ぶ」というテーマで職場体験学習を行う。	これまでの経験や知識、自分のよさを生かせることや、地域社会の中で他と共に生きる生き方と意味を考え、社会における課題を発見して主体的に解決していこうとする姿勢を養うために、「他と共に生きる生き方を学ぶ」というテーマで社会貢献学習を行う。
活動	<p>○お店の準備（5～10月）</p> <p>B一人でも多くのお客さんを楽しんでもらうためには、どんなお店を開けばよいか。</p> <p>B・C お客さんに内容を楽しんでもらうために、店員としてどのようにお客さんに接していけばよいか。しっかりハールをしよう。</p> <p>Bお客さんを楽しんでもらうためには、店員同士でしっかり協力することによりよいお店にしていく。</p> <p>○「子どものお店」当日（6～10月）</p> <p>B・C 一人でも多くのお客さんを楽しんでもらうために、お客さんの様子をよく見たり、お客さんの立場に立てることができることをしたりしていこう。</p> <p>C自分が関わったことでお客さんが喜んでいて、役に立ってよかった。</p> <p>○お店をふりかえて（6～10月）</p> <p>A・B 1～5年生のお客さんのために、みんなが楽しめるお店を企画してきたなあ。次回もっと楽しませるために、何か必要かなあ。</p> <p>A・B 自分たちがお客さんのことを考えて計画したことが、お客さんが楽しむためにとても役に立った。次回に生かしたい。</p> <p>B店員同士協力し合うことで、お客さんが楽しめるお店を開くことができた。</p> <p>A・B 自分たちがお店づくりを通して学んだことを、5年生にもしっかり伝えていきたい。</p>	<p>○オリエンテーション（6月）</p> <p>B様々な人を大切にしながらかわっていき生き方をしたい。</p> <p>A自分自身のよりよい生き方を見つけよう。</p> <p>○体験活動ガイダンス（9月）</p> <p>A自分にふさわしいまたは関心のある交流先を考えたい。</p> <p>○体験活動準備（9月）</p> <p>B学習のねらいにそって、何ができるか考えたい。</p> <p>○体験活動（交流体験）（10月）</p> <p>B交流を通して、障がいのある生徒への理解を深め、自己の生き方について考えたい。また、自分たちには何ができるかを考える機会としたい。</p> <p>B聴覚障がいのある同世代の友達とともに生きることの大切さに気づきたい。</p> <p>B視覚障がいのある同世代の友達とともに生きることの大切さに気づきたい。</p> <p>A福祉の実態とそのあり方や自分たちのあり方を見つめ直したい。</p> <p>Bいろいろなお年寄りの現状について知り、喜ばれる顔を思い描きながら、交流活動の準備や発表に取り組みたい。</p> <p>B異文化への理解を深め、国際化の進む社会の中での自分たちの生き方について考えたい。</p> <p>○ふりかえり・礼状作成（11月）</p> <p>Bお世話になった方々へ感謝の気持ちを伝えたい。きちんとした礼状を書こう。</p> <p>○他学年の発表を聞く（10～11月）</p> <p>B他の学年は、どんな学習をしているのだろうか。来年の見通しをもちたい。</p> <p>○発表会準備（11月）</p> <p>B自分たちが得たことや想いを伝えるにはどうしたらいいのだろうか。</p> <p>○発表会（11月）</p> <p>B体験を通して学んだことをみんなに伝えたい。</p> <p>○自己評価（11～12月）</p> <p>A学習のキーワード・テーマにそって振り返りたい。</p>	<p>○ガイダンス（5月）</p> <p>A地域の方々の生き方で学んだことを思い出しながら、次は自分自身を見つめるために、様々なことに気づき・考え・実行し・願望するという学習のキーワードを意識したい。そしてテーマ「自分自身の生き方を学ぶ」を念頭にこの一年間学びたい。</p> <p>○職業調べ（1年時事業所ごとにまとめ、新聞作りをしている）をもとに産業分類分けをする。（6月）</p> <p>A地域の方々の生き方で学んだことを思い出しながら、自分自身を見つめたい。</p> <p>A自分に合ったまたは経験したい職業について探したい（今後の自分を考えたい）。</p> <p>○職場体験希望調査（7月）</p> <p>A社会人としての自覚をもちたい。</p> <p>C社会人として受け入れてもらうために態度で示したい。</p> <p>○事前訪問（7月）</p> <p>B・C 学習のキーワード・テーマを思い出し、自分から行動したい。</p> <p>○職場体験（9月）</p> <p>C社会人として受け入れてもらうために自分から行動（挨拶・態度）しよう。</p> <p>B・C 働いて大変だなあ。</p> <p>○ふりかえり・礼状作成（9月）</p> <p>Bお世話になった方々にきちんと感謝の気持ちを伝えたい。文面で伝えるにはどうしたらいいかなあ。</p> <p>○発表会準備（9～10月）</p> <p>A・B 自分、自分らが得たことや想いを伝えるにはどうしたらいいのだろうか。</p> <p>○発表会（10月）</p> <p>A貴重な体験と貴重な発表時間を大切にしたいなあ。</p> <p>A・B うまく伝わるといいなあ。</p> <p>○他学年の発表を聞く（11月）</p> <p>C自分の生き方だけではなく、社会に目を向けているなんてすごいなあ。</p> <p>○自己評価（11～12月）</p> <p>A学習のキーワード・テーマにそってふりかえりたい。</p> <p>A将来どうなるのだろうか。</p> <p>A社会貢献って何だろうか。</p>	<p>○ガイダンス（6月）</p> <p>A・C 1、2年時で学んだことをいろいろと活かしていきたい。地域社会の中で他と共に生きる喜びと意味を考え、社会における課題を発見し、主体的に活動をしていきたい。</p> <p>○自分にできることを考えよう希望調査（7月）</p> <p>A・B 自分自身のことを知って、自分の適性に合った社会貢献を探していきたい。</p> <p>○調査学習（7月）</p> <p>A・C 自分ができる社会貢献活動にはどんなものがあるか、どのように進めればいいのかのよう。</p> <p>○体験学習事前準備（9月）</p> <p>A・C 社会の一員として自分には何ができるのだろうか。そして、どんな準備をすればいいのだろうか。</p> <p>○体験学習（10月）</p> <p>C普段何気なく通っているところだけど、こんなに汚れていたんだ。地域社会のために働くことができてよかった。</p> <p>○体験学習のまとめと発表会準備（10～11月）</p> <p>C自分たちの毎日の生活を見直していかなければ。</p> <p>C他にも社会のためにできることはないだろうか。</p> <p>○発表会（11月）</p> <p>B・C 体験を通して学んだことを下級生に伝えたい。</p> <p>○自己評価（11～12月）</p> <p>A・C 学習のキーワード・テーマにそってふりかえりたい。</p>
動				

社会力を育む道徳

－ 重点目標の見直しと年間指導計画の作成 －

1 これまでの取り組み

平成19年度より11年間の子どもの発達を視座におき、幼稚園の遊びや生活の中に、意図的、計画的に道徳性の芽生えが培える場面をとらえ指導を行ったり、小・中学校の道徳の時間を活性化させる具体的な手立てについて考察したりしていった。平成19年度は、「豊かな『社会生活』を創造する」子どもの姿を、「追求して学ぶ姿」、「思いやりのある姿」、「集団の一員としての姿」の3点から整理していった。「道徳」領域では、「思いやりのある姿」というカテゴリーを、道徳教育の実践からどのように追究していけばよいか、という視点から道徳の授業を構築していこうと考えた。平成20年3月には新学習指導要領が公示された。この改訂された新学習指導要領を踏まえて、全体計画を見直す必要が出てきた。

そこで昨年度は、道徳領域で育てたい社会力を教育研究ブロックごとに「思いやりの心」の育成を中心とした重点目標とし、全体計画のあり方を検討し、11年間のつながりを意識した道徳指導のあり方を検討した（図1）。また、「思いやりの心」の育成を中心とした11年間の道徳教育のあり方を表にまとめた。このように教育研究ブロックごとに「思いやりの心」の育成を中心に重点目標を見直した結果、それぞれの教育研究ブロックで重点にすべき点が見えてきた。

○昨年度整理した11年間の取り組み

【初等部前期】

家族以外の集団である幼稚園での生活、小学校での生活を初めて体験するこの段階の子どもたちにとって、基本的な生活習慣を身につけることは、とても大切なことである。この時期に身につけた基本的な生活習慣は生涯にわたってあらゆる行為の基盤となり、物事に対する意欲やかかわりを支える上で欠くことのできないものとなる。

基本的な生活習慣を身につけることは、思いやりの心を育てるためにすべての教育研究ブロックでの土台であると考えられる。自分のことが自分でできるという土台があってこそ、他者への思いやりの心も育まれるからである。その中でも特にこの初等部前期という段階において、「健康や安全に気をつけ、規則正しい生活習慣を身につけること」に重点をおくことによって、次の段階で、自分の生活を見直し、よりよくしようとする主体性のある自己形成へとつながる。また、この時期に、身近な人とかわる中で、助けを借りながら健康や安全に気をつけていくことで、安心感も生まれ、安定した集団生活を送ることができるようにすることで思いやりの心が芽生え、育っていくと考える。

【初等部後期】

この段階の子どもたちは、集団生活にも慣れ、人とのかわりが深くなっていく。相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。相手の状況や困っていること、大変な思いをしていることなどを思いめぐらせることによって、相手の立場に立って考えることができるように指導していくことが大切である。また、この段階においては、気の合う友だち同士で仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向がある。このような特性から、この段階においては、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり、友だちのことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことを中心として指導する必要がある。

本学校園では、この時期から宿泊研修が始まる。学級から学年の仲間集団が広がることで、より豊かなかわりが生まれ、助け合いや協力の心が育つと考える。友だちの立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることを大切に、学級や学年の友だちと生活を共にすることで育った相手の立場を思いやる心は、身近な集団への積極的な参加を促し、主体的に責任を果たす基盤となるであろう。